

1999-6-13「目黒会報」

OB 組織の活用法 - 21 世紀の電気通信大学

弓場敏嗣

電気通信大学大学院情報システム学研究科

1. はじめに- 21 世紀の同窓会

「目黒会会報」に 2 度目の登場です。前回は 21 世紀の電気通信大学について、独立行政法人化というマクロな観点から展望しました。今回はもう少しミクロな視点で考えてみたいと思います。

本学の同窓会（OB 組織）である目黒会およびイーテック会の集まりに、何度か参加させていただく機会がありました。会長さん、事務局長さん、会を支える方々、催しに参加された OB の皆さまと親しくお話をさせていただきました。その中で考えたことを書かせていただきます。大学時代という人格を形成する人生の青年期を共有した者たちには、強い相互信頼があるようです。また、卒業後 30 年以上も経過すると、絆はさらに一層強まってくるように見えます。このように強固な信頼の基盤をもつ大学の OB 組織を活用する方法はないかと考えてみました。

2. 活用法 1 - ビジネス交流の推進

同窓会は仕事を離れて、若きよき学生時代を懐かしむものとされています。従って、一般には同窓会の場に仕事の話を持ち込むことは無粋なこととして、話題を避ける雰囲気があります。最近よく言われる地域住民同士の交流においても、仕事の話はタブーとされていることが多いようです。確かに、競合関係にある同業種の会社の場合などでは、むやみに情報交換という訳にもいかないでしょう。ビジネスにはお金が絡んできます。お金の話は人間関係を壊すもとではあります。しかし、ここはあえて仕事の話をして、ビジネス機会の発見、あるいは、ビジネス問題解決の場として活用してはどうかと考える訳です。電通大の卒業生として電気通信技術に関係のある仕事をしていれば、これからの事業の展開に必要な情報交換を目的とした有意義なビジネス交流が可能と思われます。OB 組織という信頼の基盤にたったビジネス交流は夢物語りでしょうか？

イーテック会は、そうした電通大 OB によるビジネス交流の場として企画されているそうです。しかし、その活動はまだ不十分と聞いています。電子情報通信学会等の学会における研究会のように、OB 組織の活動を会員の興味の内容に沿って幾つかの部会をもうけ、中味のあるビジネス交流を行うことが可能だと思います。同窓会は、一般に同年次の者たち

が会って単に昔を懐かしむだけ、というのが多いようです。ビジネス交流を旨とする部会は年次をこえて集い、さまざまの立場からそれぞれの経験を踏まえ、目的意識をもって論議を尽くすことが求められます。新たな事業への展開につながれば理想です。しかし、それほどの実利は期待できなくても、各自が抱えているビジネス上の問題への解決のヒントが得られれば、ビジネス交流の成果と言えるのではないのでしょうか。

3. 活用法2 - 引退後交流の展開

リストラに遭わなくとも、まだまだ心も身体も十分な活力があるのに引退を余儀なくされる世の中です。そういう状況に足を踏み込もうとしている世代は、自分たちで楽しく人生を送る手だてを考えなくてははいけません。そこで提案はOB組織を活用して引退後交流を深めるというものです。もちろん、この提案が引退後の人生の過ごし方として最善であるなどとは思いませんが、同窓会は何よりも相互信頼という確固たる基盤がありますから、組織の運営も何事によらずスムーズにことは運ぶと推測されます。知らないもの同士のボランティア活動では、信頼感を醸成するのに時間がかかると聞きます。ここでも関心のある事象ごとに研究会的なクラブ活動の主体をもうけ、離合集散は構成員の意思次第とすればいいかと思います。

クラブはゴルフなどのスポーツや、芸術、文化など、技術とは無縁な幅広い対象を含めるとよいでしょう。あるいは、自分が歩んできた科学技術の歴史に関するウン蓄を語る研究会もよいアイデアだと思います。クラブの中で閉じこもるのもよいし、そこでの議論をベースにして世の中にうってでる、社会貢献をすることも刺激的かも知れません。

4. おわりに - 目黒会は永遠です!

以上の議論は、あるいは単なる思いつきの書生論で、とるにたらない浅智恵にすぎないかもしれません。しかし、21世紀の社会の変容を予想するとき、OB組織の有り様も従来のままであるとは思えないし、世の中の変化に適応していくことが求められているとも考えます。

前号で国立大学の独立行政法人化の潮流の中で「戦略なき大学は没落する」という意見を述べました。皆さまのOB組織を永遠たらしめる戦略はただ一つ、電通大を未来永劫にわたり生き延びさせることです。電通大が21世紀も存続し、今後も情報、通信、エレクトロニクス技術に関する優れた人材を輩出する卓越した大学であって欲しいという願いは、OBの皆さまとわれわれとで変わりはありません。電気通信大学、とりわけ、大学院情報システム学研究科へのOB各位の熱いご支援をお願い致します。